芭蕉元禄事業　奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年十一月度　入選句（投稿総数二千五百七十一句・一般投句数九百句）

選者　大堀　武直

特選

鐘の音の霧を押しゆく霧の町　大垣市　今津　正元

霧。空気が冷やされて水蒸気が凝結し、細かい水滴となって雲のように立ちこめる現象。科学的に言うとこうだが、霧の町となると幻想的になる。さらに鐘の音が霧を押すで、詩情がより豊かになった。

三歳と指真っすぐに七五三　不破郡垂井町　西垣　和志

七五三。十一月十五日に行われる男児は三歳と五歳、女児は三歳と七歳のお祝の儀式。「いくつ」と問われて「三歳」と大きな声で答え、指を立てる様子が目に見える。スナップ写真のような微笑ましい句である。

はしご酒更待月と帰りたり　大垣市　宮上　美濃留

更待月。満月（十五夜）、十六夜、立待月、居待月、臥待月とあり次の日の月。夜が更けてから出てくるのでこう呼ぶ。はしご酒で相当酔いが回っていることであろう。月も後からついて来る。ユーモアのある句。

秀逸

秋高し空より青き伊吹山　大垣市　名和　三津子

秋深し母の名のある鯨尺　大垣市　鶴田　信子

吊り橋の長きがうれし山紅葉　安八郡輪之内町　野村　照子

三日月と茜空との競い合ひ　大垣市　中川　慈恵

木曽はいま錦秋ならむ巴塚　福井県敦賀市　山田　美千代

老ゐたれば二人で一人暮の秋　安八郡神戸町　早津　郁男

栗飯の天地ざつくり返しけり　愛知県名古屋市　舘野　茂子

行く人に受け答へして松手入　大垣市　神野　武彦

目鼻口消えゆくまでを立つ案山子　愛知県西尾市　金子　恵美

サックスの乾きし音に秋惜しむ　神奈川県横浜市　龍野　ひろし

入選

燃えるように沈む夕日や曼珠沙華　大垣市　川瀬芙沙子
病室の母へこっそり栗ご飯　大垣市　杉﨑郁子
皮剥きに二時間かけた栗ごはん　大垣市　時田さがみ
静けさにつまくれないのはぜる音　大垣市　杉﨑寿美
柿をむく黙して妻の手際かな　大垣市　多和田一徳
教会の夕べの鐘や秋の風　大垣市　今津正元
捨案子ご苦労様と語りかけ　大垣市　北村陽子
夕映えの伊吹遥かに鳥渡る　大垣市　森川きよ子
ビル街に残る古道や天高し　大垣市　安田直隆
水澄めり昔を今に常夜燈　静岡県浜松市　樋田圭子

入選

蛍草静かな雨の日暮かな　静岡県沼津市　堀野一郎
コーヒーの黒く澄みたる小六月　大垣市　棚橋みさを
小魚の藻を逆のぼる水の秋　東京都日野市　堀美津子
方言の分布図ひらく文化の日　不破郡垂井町　竹並朋喜
傷兵の姿にも似し枯けやき　不破郡垂井町　桐山實
文化の日豆煮る主婦でありにけり　大垣市　町野眞佐子
新らしき絵馬二つ三つ神の旅　大垣市　安部芳枝
日の匂ひ郷の匂ひの今年藁　養老郡養老町　田中秀子
豊の秋旅の土産に長寿餅　大垣市　田中雅子

選者吟

文化とは何かと問はれ文化の日　武直